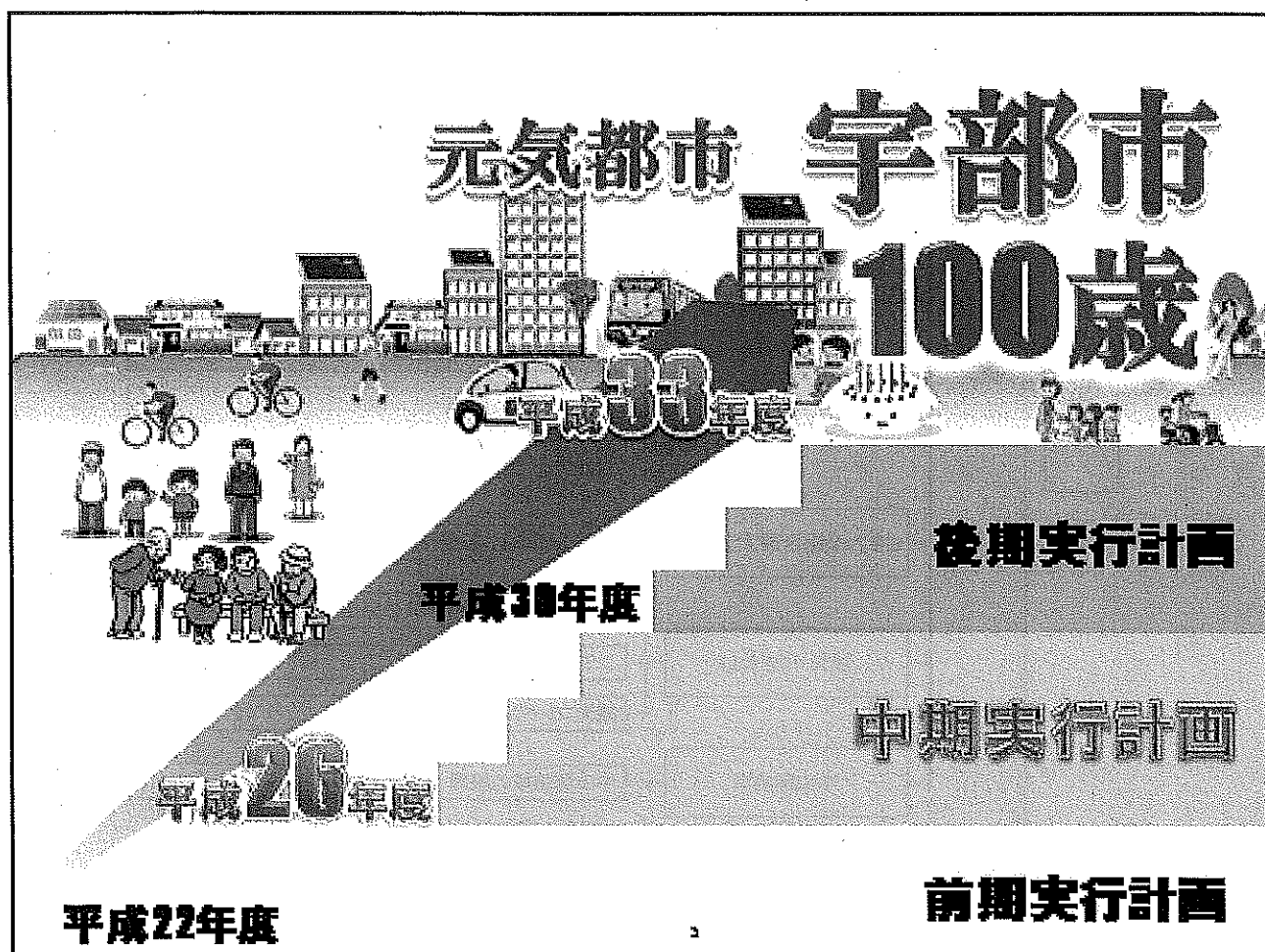
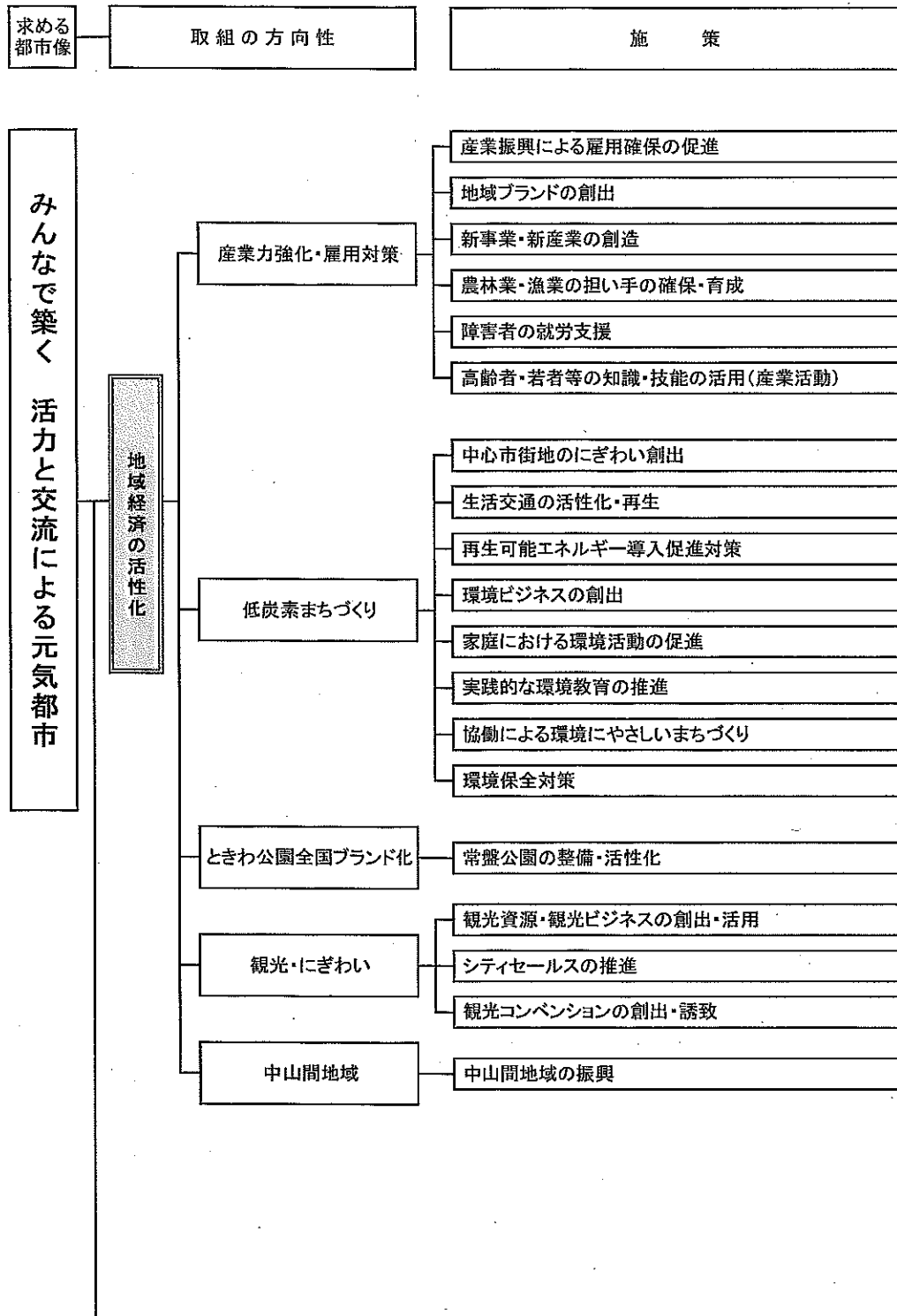


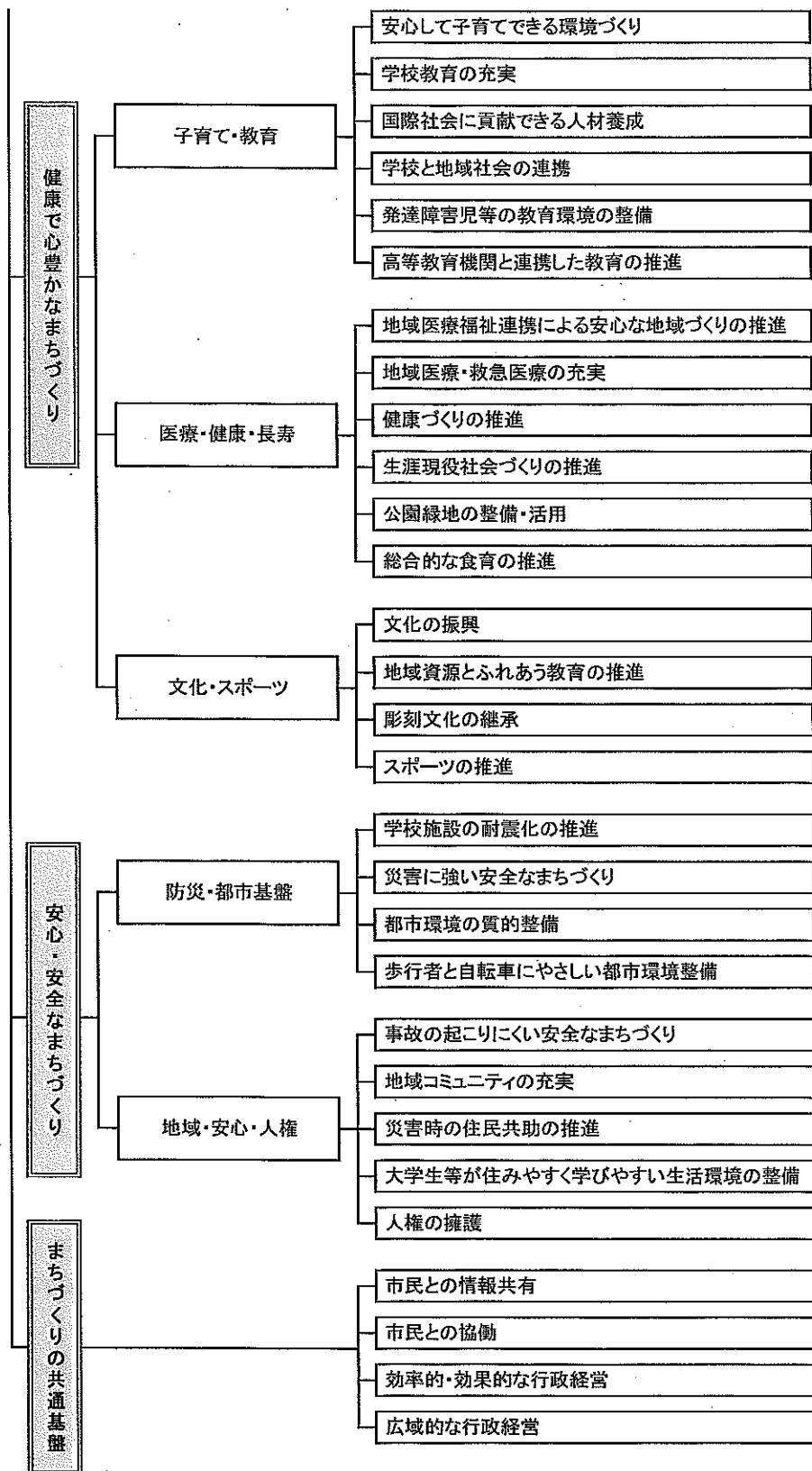
「第四次宇部市総合計画 中期実行計画(平成26年2月)」(抜粋)

～「文化振興ビジョン」に関連して～



施策体系図





文化の振興

基本構想の取組内容

行政	市民	産業	市民力	地域ブランド
生活文化	生活文化	教育文化	産業文化	生活文化

- 彫刻や地域資源とのふれあいによる文化・歴史教育を通じて、子どものふるさとへの愛着心を育成します。
- 宇部市の歴史や彫刻とふれあうことができる学校教育、社会教育を進めます。

◆取組の目標

本市の特性を踏まえた文化事業を計画的かつ安定的に推進し、宇部市文化創造財団を核として、市民主導で公民連携による活発な展開を図り、心豊かで活力のある地域社会を醸成します。

◆現状と課題

《現状》

本市独自の文化の継承と文化によるまちづくりを市民と行政が協働して進めるため、平成22年に「宇部市文化の振興及び文化によるまちづくり条例」を制定するとともに、将来を担う子どもたちの健やかな成長と心豊かな市民生活をめざし、平成24年に宇部市文化振興基本計画「煌くまち 文化振興ビジョン」を策定しました。

また、このビジョンに基づき、本市固有の歴史や伝統文化を学習・閲覧できる施設として、平成25年5月に学びの森くすのきを新たに開館するとともに、同年10月には公民協働による本市の文化振興の推進母体となる組織として、宇部市文化創造財団を設立しました。

《課題》

新たに設立した宇部市文化創造財団を核として、多彩な文化事業を総合的・効果的に推進し、文化を感じ、文化によるにぎわいのあるまちづくりを進める必要があります。

また、学びの森くすのきを市民の自主的な学習・文化活動や交流の場として、効果的に活用することができる仕組みが必要です。

◆主要事業の具体的な取組

文化活動推進事業【新規】

617

620

- ・ 文化振興の推進母体となる財団へ、ソフト事業を委託するとともに、財団による新たな自主文化事業、人材育成事業への支援を行います。また、渡辺翁記念会館及び文化会館の管理運営を指定管理者制度に移行します。
- ・ 伝統文化活動を行う拠点となる施設の環境改善に取り組むとともに、利用可能施設を紹介するなど、積極的な情報提供を行い、活動促進を図ります。

子どもの文化活動支援事業

603

621

- ・本市が毎年開催している全国小・中学生箏曲コンクールのブランド化を図るため、市民を対象としたワークショップ的な教室を定期的に行い、日常的に市民の箏に対する関心と親近感を高めます。
- ・子どもたちがさまざまな文化活動を体験できるよう、多彩なジャンルの教室を開講するとともに、レベルの高い指導者を招聘し、ワークショップ型の教室を開講します。

文化財活用推進事業

- ・本市の貴重な地域資源としての文化財資料の活用を図るため、学芸員やサポーターと市民団体、郷土史研究団体との連携による文化財展や市民参加型イベントなどを開催します。

学びの森くすのき運営事業

- ・市民の意見を反映させる企画運営委員やサポーターを募集し、施設の企画や運営などさまざまな活動に、市民が参画できる環境を整えます。
- ・専門的知識を持つ司書や学芸員を中心に市民ボランティアによるレファレンス機能^{*}の充実を図り、市民の学習活動を支援します。
- ・博物館機能の充実を図り、各種プログラムを企画・実施します。

◆目標指標

成 果 指 標	前期 策定時値	現状値	基準年	中期 目標値
芸術祭出品者数・出演者数（累計）	2,504	2,871	平成25年	3,500
芸術祭入場者数（累計）	14,994	13,566	平成25年	35,000
子ども夢教室（文化）の開催回数（回/年）	（新規）	—	平成25年	8
学びの森くすのき来館者数（累計）	（新規）	—	平成25年	50,000

《用語》

※「レファレンス機能」

利用者の求めに応じて、図書館職員が調査・研究等に必要本の紹介や資料の検索・提供等の手助けを行うこと。参考業務ともいう。

地域資源とふれあう教育の推進

基本構想の取組内容

歴史	文化	産業	市民力	地域ブランド
伝統文化	博物館	教育文化	生涯学習	観光交流

- 彫刻や地域資源とのふれあいによる文化・歴史教育を通じて、子どものふるさとへの愛着心を育成します。

◆取組の目標

本市のまちづくりの歴史や常盤公園を始めとした地域資源を学び、ふれあふふるさと学習を進めることにより、ふるさとへの愛着心を持つ子どもたちを育成します。

◆現状と課題

《現状》

本市の特色ある地域資源や文化・歴史について学習することは、ふるさとへの愛着心や郷土愛を育むことにつながることから、小中学校の学習指導要領では、社会科等で地域に関する学習を行うことになっています。

小中学校において本市の歴史や自然、文化、産業などの学習教材として副読本を作成し社会科の授業においてふるさと学習を行っています。

総合的な学習の時間を活用した地域資源の見学や体験を通じた学習を行っています。

本市のシンボルである常盤公園内の「ときわミュージアム」において、地域資源とふれあい、学習できる機会として、子どもを中心とした彫刻や植物に関連した企画展やワークショップ等を実施しています。

《課題》

社会科においては副読本が十分活用がされていますが、郷土字部への愛着心を持たせ、「字部の精神」を引き継ぐ人材を育てる上で、総合的な学習や他教科においても活用できるように、教職員への副読本の認知とその活用事例の提供を進める必要があります。

また、資料集としても使用するため、できるだけ最新のデータを提供するとともに、使用状況や問題点等を学校現場の声に応じて洗い出し、副読本をより有効に活用できるよう編集していくことが必要となります。

本市の代表的な地域資源である彫刻については、市民の彫刻に対する受け止め方や思いが様々であり、また、「ときわミュージアム」にある植物については、観賞用や学術用として管理していることから講習会や園芸相談において市民ニーズとマッチしない場合があり、市民活動団体と連携・協働した企画や運営が必要です。

◆主要事業の具体的な取組

ふるさと学習推進事業

603

- ・ 統計データ、写真等の収集に当たって、関係機関と連携を図り、充実した社会科副読本を改訂します。
- ・ 「宇部の精神(こころ)」を学ぶことができるような「地域教材」を開発し、社会科や道徳、総合的な学習の時間などで活用します。
- ・ 大学、高等専門学校、地域住民等の人材を活用し、小学校高学年を対象とした「夢教室」を開催します。

植物教育普及事業

501

- ・ 地域資源を学ぶ機会として、常盤公園や「ときわミュージアム」にある植物を活用し、植物講習会や園芸相談、ボランティアによる温室ガイド、あるいは、植物クイズや植物カードの配布・実施により、子どもたちを含めて、植物に親しみ学ぶ機会を提供するとともに、環境学習拠点である、「まちなか環境学習館」、「ときわミュージアム」、「アクトビレッジおの」との連携を図り、自然環境の大切さへの理解促進に努めます。
- ・ 企画展の実施に当たっては、市民のニーズを把握するとともに市民活動団体と連携・協働できる体制を構築するとともに、平成25年度から開始した公民連携事業の充実により、市民・団体による、自主的な企画・展示を拡充します。

◆目標指標

成 果 指 標	前期 策定時値	現状値	基準年	中期 目標値
社会科の関連単元における副読本の活用時間数(時間/年)	(新規)	25	平成24年	25
子ども夢教室(講話、体験活動)の実施校数(校/年)	(新規)	—	平成25年	8
「ときわミュージアム」への入館者数(人/年)	121,800	141,053	平成24年	160,000

彫刻文化の継承

基本構想の取組内容

生活環境	歴史 防災対策	観光 教育文化	市民力 産業経済	地域ブランド 公共施設
------	------------	------------	-------------	----------------

- UBE ビエンナーレや野外彫刻のPR、彫刻にかかわるボランティア活動などを通じ、宇部市の彫刻の文化を次世代に伝え、継承します。
- 宇部市の歴史や彫刻とふれあうことができる学校教育、社会教育を進めます。
- 常盤公園などの地域資源を、親子の健康づくりとふれあいの場、地域の歴史などを学ぶ場として活用します。
- 彫刻によるまちづくりや環境活動などに市民が関心を持ち、楽しみながら参加できる機会をつくりまます。

◆取組の目標

地域資源の一つである彫刻と彫刻のあるまちづくりに対する市民の誇りと愛着心を醸成し、彫刻による文化を次世代に継承するとともに、地域ブランドとして「彫刻のまち 宇部」を積極的にアピールし、交流人口の拡大に努めます。

彫刻に親しむ機会を創出することにより、市民が彫刻やまちづくりに関心を持ち、楽しんで参画する公民連携の彫刻によるまちづくりを目指します。

◆現状と課題

《現状》

歴史ある UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、若手作家の登竜門として、海外からの応募も増加し、国際展として世界的に認知されつつあります。

その入賞作品等を市街地や常盤公園等に設置し、彫刻のある景観形成とまちづくりの取組を進めています。

平成 24 年、市民提言を受けて創設された、「UBE ビエンナーレ世界一達成市民委員会」を中心に、市民総参加の総合アートイベントに向けて取り組んでいるところです。

教育施設と観光施設の 2 つの機能を有する「ときわミュージアム」を拠点とし、彫刻に対する理解や愛着心が醸成されるよう、ワークショップや彫刻作家との交流会、企画展などを開催し、彫刻とふれあい、親しむ学習機会を提供しています。

市民活動団体による彫刻清掃活動や彫刻ガイドなどの取組みのほか、平成 23 年度には、彫刻教育推進事業を開始し、学校教育との連携の中で授業を展開しています。

《課題》

彫刻は、本市の貴重な資源であるにもかかわらず、市民の誇りと満足感につながっていない状況です。

市民の彫刻に対する関心度や愛着心に意識の格差が生じているため、彫刻清掃活動や彫刻ガイドを行う団体を始め、市民や様々な団体と連携しながら、気軽に参加でき、彫刻にふれあえる取組を進め、彫刻への興味や関心を持てるようにする必要があります。

このため、「UBE ビエンナーレ世界一達成市民委員会」による取組や、学校と連携した彫刻教育、市民や団体との連携による交流会や企画展の実施など、彫刻に親しむ機会や環境づくりを進めながら、着実に大きな成果を引き出していく必要があります。

また、「彫刻のまち 宇部」を積極的にアピールし、観光客等交流人口の増加による本市の活性化につながる取組が必要です。

◆主要事業

彫刻設置事業

501

- ・ UBE ビエンナーレへの市民参加の動きに連動し、地域や施設等からの要望にも対応しつつ、設置内容の一層の充実を図ります。
- ・ 「彫刻のあるまちづくり」にふさわしい野外彫刻の安全性の確保と効果的な設置を進めます。

彫刻教育普及事業

501

- ・ 平成 23 年度から開始した「彫刻教育推進事業」をさらに発展し、学校教育との連携の中で、宇部市の彫刻の歴史への理解、愛着心の醸成を図っていきます。
- ・ UBE ビエンナーレ本展や企画展等の開催中に実施する、ワークショップや関連企画等を通じ、彫刻とふれあう機会を提供します。
- ・ 市民活動団体との連携により、子どもを始め市民に親しまれやすい企画展を開催し、彫刻にふれあう取組を行います。

市民彫刻普及活動支援事業

- ・ 彫刻清掃活動を支援するため、作家との調整、清掃指導、広報 PR 活動等を行います。
- ・ 彫刻に関する専門的な知識を習得してもらうため、彫刻ガイド養成講座などへ講師の派遣を行います。

◆目標指標

成 果 指 標	前期 策定時値	現状値	基準年	中期 目標値
野外彫刻設置点数（累計）	（新規）	197	平成 24 年	201
彫刻教育推進事業参加者数（人/年）	467	1,111	平成 24 年	1,200
彫刻関連ワークショップ参加者数 （人/年）	（新規）	379	平成 24 年	400
彫刻清掃参加人数（人/年）	494	247	平成 24 年	600